

不祥事根絶に向けた校内研修

校種：特別支援学校

1 研修テーマ

「不祥事根絶について～わいせつ・セクハラ関係を中心に～」

2 研修テーマ設定のねらい

本校では、定期的に不祥事根絶研修を実施している。今回、児童生徒に「セクシュアルハラスメント及び体罰に関する実態調査」を行うにあたり、事前に教職員には、県教育委員会から配信された研修動画6「望ましいコミュニケーション」、及び「不祥事根絶分析シート」を活用しての研修を行い、当事者意識を醸成することをねらいとして本テーマを設定した。

3 研修実施までの流れ（準備）

(1) 事前準備と打合せ

今回の校内研修は、不祥事根絶について（わいせつ・セクハラ関係を中心）の内容であったので、モラルアップ委員会を中心として研修を進めることにした。そこで教頭とモラルアップ委員会のチーフである主幹教諭とで、不祥事根絶研修に向けて話し合いを行った。実施にあたっては、コロナ禍であることや教職員の働き方改革の一環として、できるだけ密にならず、また、長時間の研修にならないよう計画した。

(2) モラルアップ委員会の開催

校内モラルアップ委員会を開催し、今回の不祥事根絶研修の主旨を説明した。県教育委員会から配信された研修動画6を使用し、動画の視聴とスライドを読む形のどちらでも取り組めるよう紙媒体でも資料を用意し、全教職員に配付した。（事務室、介助員等にも回覧し、内容を共有するようにした。）

4 研修当日の流れと時間配分（総時間：約40分）

※ 研修は、学部ごとに実施し、さらにその中で小グループ（7人程度）を作成し実施した。

(1) テーマを選択（研修動画6の目次①③④⑤⑥から選択）

→動画視聴またはスライド読解（10分）

(2) 不祥事根絶自己分析シートの記入（10分）

(3) テーマに沿って意見交換（20分）

5 研修で活用した資料

- ・校内研修会（不祥事根絶について）実施計画1枚（別添資料参照）
- ・県教育委員会が配信した研修動画6のスライドを印刷したもの
- ・不祥事根絶自己分析シート1枚（別添資料参照）

6 研修参加者の声

- ・ 「誰も見ていない」という環境や「これぐらいは許される」と自分の間違えた考えを正当化することを防ぐために、互いに声を掛け合って連携・協力し合える風通しの良い職場であることが大切であると感じた。
- ・ 生徒から被害の相談があったらどうすべきか考えさせられた。職員一人で抱えずにチームで対応していきたい。ただし、相談に乗っていることから親密になり、性加害者につながることもあり得ることも自覚する。
- ・ 元々子どもを性的な目で見るとような人間を採用段階で見抜けないか。
- ・ 特別支援学校では自分の気持ちを人にうまく伝えられない子が多い。そういう児童に対して、されて嫌だった場合の相手への伝え方や身近な大人に相談するなどの指導法について考えていかなければならない。
- ・ 日常行っていることがグレーゾーンになるのか、ならないのか振り返ることができた。
- ・ プライベートゾーン（水着ゾーン）は、大切な場所を説明するのにとてもわかりやすい。この説明から自分は大切なんだという意識がもてると思う。
- ・ 親しみから茶化すことになり、知らぬ間にプライベートゾーンを侵してしまう傾向にあると思うので、日頃から予防に努めていきたい。
- ・ 自立活動の授業の特性上、1対1で関わらざるを得ない場面や身体に触れなければならない場面がある。指導体制を考慮すること、指導場面で複数の目があるようにすること、ドアをあけることなどの工夫をする必要があることを確認した。

7 研修の成果と課題

(1) 成果

- ・ 不祥事根絶のテーマについて、繰り返しグループ協議に取り組んできたことで、意見交換がスムーズに行われるようになってきた。不祥事根絶に向け、これまでの自分自身を振り返ったり、他者の意見を聞いたりすることで考えを共有したり、深めたりすることができた。
- ・ 管理職による講話方式ではなく、自分たちがテーマを選び、少人数でのグループ協議の形をとることで、能動的な研修となった。また、不祥事根絶に向け、他人事ではなく自分事のように考える職員が増えてきている。

(2) 課題

- ・ 研修動画6は児童生徒の指導にも生かしていける内容であった。具体的にどのような場面でどのように指導していくか、実践への活かし方についてもまとめていきたい。
- ・ 教職員同士で話し合った内容を児童生徒にどのように伝え、また児童生徒が日常生活にどのように般化できるかがまだまだ課題である。
- ・ 研修そのものにはどの教職員も前向きに取り組んでいるが、他校での実践や感想・意見なども知りたいという意見もあがっていた。